

## 女性芸能人専用特別監獄 魅惑の豆腐ボディ編 その2

「おお、これが掛井ちゃんのおっぱい...」

沢田は、手のひらに余るほどのずっしりとした量感を味わいながら、掛井の乳房を優しく握りしめる。

「あーん...」

やわやわと乳房に男の指が食い込むと、掛井は泣くような声を漏らす。

「先生、この前の上野歩夢さんの時とは違って、えらい入念やね」

古山が皮肉っぽく声を掛ける。

「上野さんは全然反応してくれなかったからね...この掛井ちゃんの恥じらいを見なよ！ほらっ」

「あんっ！」

沢田が、乳房を握りしめる指に力を込めると、掛井の声もいっそう高くなった。

（たしかに、上野さんは気丈な人やったから先生の責めによう耐えた。掛井ちゃんは...もうフニャフニャや...でも...）

古山は、悦に入って掛井の乳房をいじめる沢田を見ながら考える。

（先生は、上野さんの無反応に努めてるのを楽しんでたんやけどね...恥ずかしがったり意地を張ったりして、反抗的にされる方が燃えるんや...）